

②ブロックローテーションと小畦立て播種ほ場（北上市二子町）

農事組合法人 二子中央営農組合 代表理事 小田島 徳幸氏

（補足説明：中央農業改良普及センター地域普及グループ 主任農業普及員 臼井智彦氏）

現在の経営面積は約110haで、水稲65ha、大豆40ha、さといも5haとなっています。

大豆の主な品種は、リュウホウとシュウリュウです。調査ほ場は、シュウリュウの採種ほ場です。

経営の特徴は、100haを超える経営面積でありながら、水稲・大豆・さといものブロックローテーションを確実にやっていることです。集積が進んだ地区では15ha程度の大ブロックを、集積が進んでいない地区でも5ha程度の小ブロックで、作付けを実施しています。このブロックごとに水稲2作、大豆1作のサイクルでローテーションしています。なお、二子町ではさといもが特産になっており「二子さといも」という名でブランド化しています。このさといもをローテーションの一部に組み入れている点が特徴になります。

シュウリュウは、岩手県内で面積が伸びていますが、ダイズシストセンチュウに弱く、連作するとこの被害が増えてしまいます。ダイズシストセンチュウを防ぐためには、水稲と大豆の輪作が有効です。計画的にブロックローテーションを行っている当組合のほ場では、ダイズシストセンチュウの発生はなく、非常に良質なシュウリュウが作られています。

また、大豆は水稲の後に作付けするため、湿害対策が一番の課題になります。明きょは、ほぼ全てのほ場で施工し、サブソイラーでの弾丸暗きょを必要に応じて施工しています。併せて、全てのほ場で小畦立て播種あるいはアップカットロータリーを使った耕うん同時畦立て播種を実施し、生育初期の湿害を回避しています。ロータリーの爪配列を変えるだけでも畦はできますが、畦の成形機を付けて台形に近い畦を作っています。成形機を付け

ずに畦立てすると、中耕・培土をしたときに土量が足りなくて株元に土がかぶらないということもありますが、台形状の畦を形成することによって寄せる土を確保しているというのも特徴の一つです。

当組合では、「雑草の種子を落とさない管理」を目指しています。このため管理しているほ場全てに責任者の名前を記載した看板を設置しています。ほ場管理する人の責任を明確にし、管理の徹底を心がけています。



〈二子中央営農組合 小田島氏(右)〉

中央農業改良普及センター臼井普及員(左)〉



(様式)

農事組合法人 二子中央営農組合（北上市）

1 組織概要

- ・ 設立年 平成 21 年 4 月 10 日
- ・ 代表者 小田島 徳幸
- ・ 組合員 89 人
- ・ 経営規模 水稻 62.0ha、大豆 40.7ha（うち採種 20.8ha）、さといも 6.8ha
- ・ 大豆栽培面積 H28 年産 40.7ha（H27 年産 39.0ha）
- ・ 主な品種 リュウホウ、シュウリュウ

2 技術、経営の特徴

- (1) 地域特産のさといもを組み込んだ、水稻・大豆・さといものブロックローテーションを実施。
- (2) 湿害を防止するため、圃場条件に応じて、小畦立て播種と耕うん同時畦立て播種を実施。
- (3) ほ場管理責任者を明記したほ場看板を設置し、責任あるほ場管理を実施。

3 耕種概要（品種：シュウリュウ）

項 目	内 容
作付年数（前作）	1～2 年（水稻）
土壌改良資材等	タンカル 50kg/10a
	牛厩肥：1～1.2t/10a（秋施用）
	鶏糞 100kg/10a（春施用）
耕起、整地	プラウ→バーチカルハロー耕
基肥	穀類専用 10～15kg/10a 成分（N:15 P:18 K15） （6 月 11 日・側条施用）
種子消毒	クルーザーMAXX
播種	6 月 11 日 播種様式：70cm×23cm 2 粒播き
除草剤	ラクサー乳剤
機械除草	7 月 12 日 キュウホー
中耕培土	7 月 21 日
病虫害防除	8 月 5 日 アブラムシ（採種圃場分）（アクタラ顆粒水和剤）
	8 月下旬 紫斑病・マメシンクイガ（バルコートフロアブル・プレバソソフロアブル5）
	9 月上旬 紫斑病・マメシンクイガ（マネージ DF・スミチオン乳剤）

【補足資料】

1 湿害回避播種技術の利用

- 2つの湿害回避播種技術を圃場条件に合わせて使い分け
 - ① 小畦立て播種栽培技術（2台）
 - 比較的排水のよい圃場、碎土がよい圃場
 - ② 耕うん同時畦立播種栽培技術（1台）
 - 比較的排水の悪い圃場、碎土が劣る圃場
- 小畦立て播種について、独自の培土板で幅広の畦を形成し、土寄せ時の土不足を解消

図1:改良型小畦立て播種(二子中央方式)

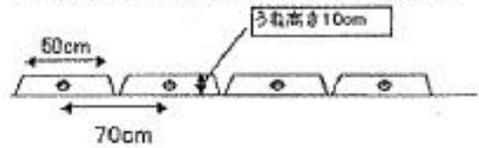
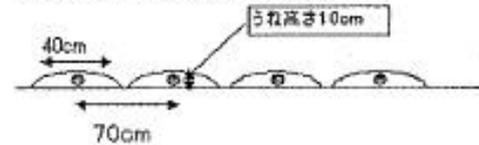
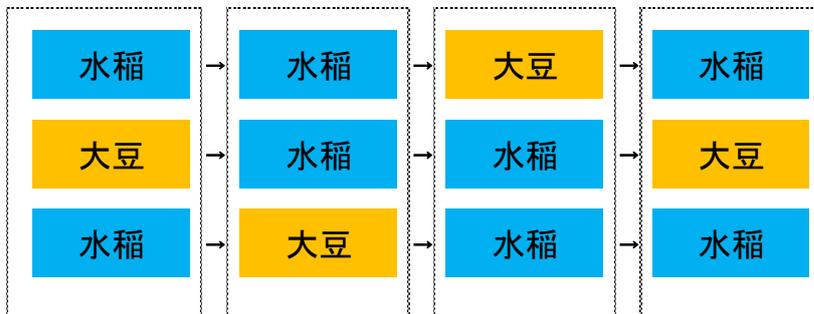


図2:小畦立て播種(岩手農研方式)

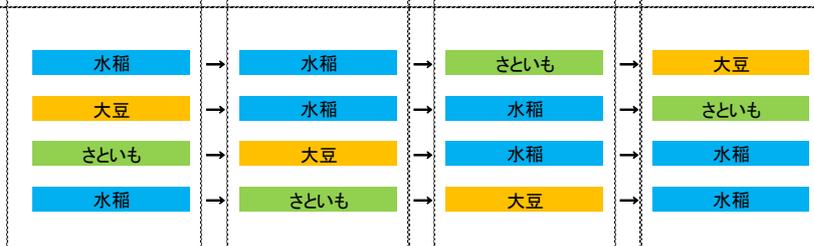


2 土地利用体系について

【大ブロック】
16~22haの
ブロックを3つ
設け、水稲→
水稲→大豆
の順に回す。



【小ブロック】
6~7haのブ
ロックを4つ設
け、水稲→水
稲→さといも
→大豆の順に
回す。



合計面積 90~105haで維持

- 3 圃場管理を徹底する取組
優良な圃場管理に対する
評価と看板設置による栽培
管理の徹底
(左 一般圃場、右 採種圃場)

